

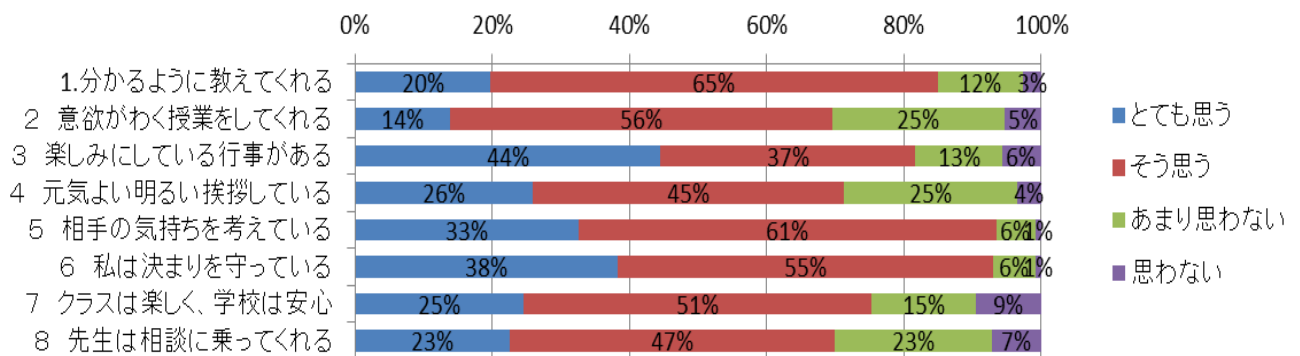


# 布 施 だ よ り

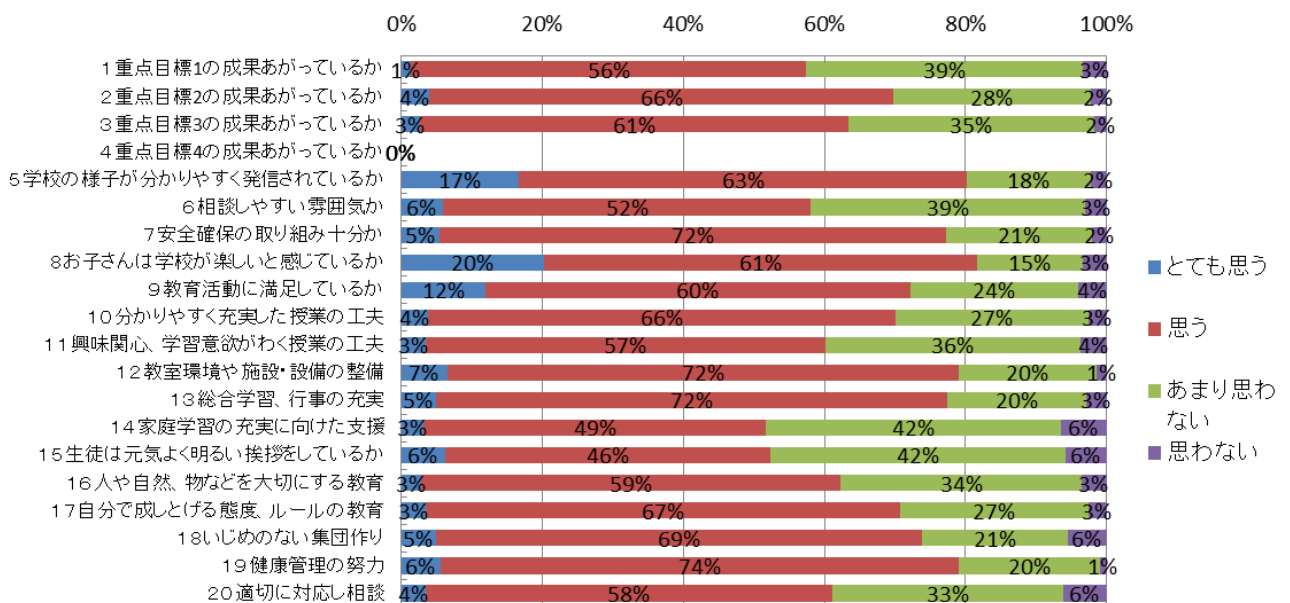
## 《 平成 26 年度 生徒・保護者アンケートより 》

1 年間の学校運営を振り返る「保護者アンケート」と「生徒アンケート」を昨年末に行いました。その結果と考察を受け、学校関係者評価委員の皆様（学校評議委員会）のご意見をいただきながら、本年度篠ノ井西中学校の学校関係者評価としたものをお届けいたします。

平成26年度 生徒アンケート結果



平成26年度 保護者アンケート結果



### 〈全体としての考察〉

生徒アンケートからは、「私のクラスは楽しく、学校は安心できる場所」の項目において、肯定的評価が 75%（前年度比+7%）であり、生徒も教職員も「誰にとっても居心地の良い」クラス作りに取り組んできたことが分かります。しかし、まだ 25%の生徒が否定的評価をしていることに心寄せ、安心で安全な学校作りに向けて生徒と職員が一緒になって取り組んでいきます。

保護者アンケートからは、「お子さんは、学校生活が楽しいと感じているか」が 82%や「情報提供が分かりやすく発信されているか」が 80%と肯定的評価が出ています。生徒の活躍の良さを小まめに発信し、より保護者・地域の皆様と一体となって連携しながら学校作りがなされるよう取り組みを図ってまいります。

一方で「相談事への適切な対応」の項目については、十分ではないといった受け止め方（39%）があり、さらに一層努力して取り組んでいきたいと考えます。

平成 26 年度学校グランドデザインをベースに、1 年間を振り返り、成果と課題を確認できた評価アンケートでした。課題解決に向けて、より情報を発信・共有しつつ、生徒にとって学びがいて成長が実感できる学校運営に取り組んで参ります。



今後ともよろしく願いいたします。

～ ～ ～ ～ ～  
「二人が睦まじくいるためには／愚かであるほうがいい」ではじまる『祝婚歌』など、分かりやすい言葉を使って人と人とのつながりを描いた作風で知られる、詩人吉野 弘さんが昨年 1 月に亡くなり 1 年が経ちます。ひとり娘の奈々子さんに寄せた詩を紹介します。

### 奈々子に ～ 吉野 弘 ～

赤い林檎の頬をして／眠っている 奈々子。  
お前のお母さんの頬の赤さは／そっくり／奈々子の頬にいつまでも  
ひところのお母さんのつややかな頬は少し青ざめた／お父さんにも ちょっと／酸っぱい思いがふえた。  
唐突だが／奈々子／お父さんは お前に／多くを期待しないだろう。  
ひとが／ほかからの期待に応えようとして／どんなに／自分を駄目にしてしまうか  
お父さんは はっきり／知ってしまったから。  
お父さんが／お前にあげたいものは／健康と／自分を愛する心だ。  
ひとが／人でなくなるのは／自分を愛することをやめるときだ。  
自分を愛することをやめるとき／ひとは／他人を愛することをやめ／世界を見失ってしまう。  
自分があるとき／他人があり／世界がある。  
お父さんにも／お母さんにも酸っぱい苦勞がふえた。  
苦勞は／今は／お前にあげられない。  
お前にあげたいものは／香りのよい健康と／かちとるにおずかしく  
はぐくむにおずかしい自分を愛する心だ。



私たち大人が若い人たちに与え、授けたいものは山ほどあるのだけれど、この詩を久しぶりに読み返してみると難しく考える必要など全くなく、いたってシンプルだということに改めて考え、教えられました。私たち大人が、若い人たちに望むものは、毎日毎日を健康で過ごしてくれることと、かけがえのない自分を大切にすると同様に、周りとうまくあいながら過ごしていこうとする周囲への優しくて揺るぎのない信頼感。

・・・生徒たちは「自分を愛する心」と「健やかな心身」を身につけようとしてくれています。

～ ～ ～ ～ ～  
10・12 日（火・木）に公立高等学校前期選抜が各高等学校で行われました。面接に臨んだ生徒たちは面接試験を終えて手をニコニコと振ってくれながら、学校に戻ってきます。

帰宅した生徒は、学校へ電話報告を入れてくれます。「大変でしたあ～」と声を弾ませる生徒、「自分としては精一杯力を出しました！」と自信を覗かせる生徒、「一生懸命答えようとしたんですけど、噛んでしまって～」と苦笑いする生徒……。緊張感から解放された喜びが受話器の向こうからビシビシ伝わってきます。

年明けの 1 月から面接に向かう心構えを学び、実際に面接練習に先生方を面接官に見立てて臨んできた生徒諸君。お辞儀は 1 秒頭の動きを止めて……。話すときは相手の鼻がしらを見て……。カーディガンの袖は見せないで……。進学の志願理由をもっと明確に……。文章を覚えて話すんじゃなくて、会話のやりとりを楽しむつもりで……。等々。

そんな経験を一緒に過ごしてきた仲間ですから、帰宅報告を受ける 3 学年の先生方もうれしくなって微笑んでしまいます。「ご苦勞様、休み明け、待っているからね。」と返すと、異口同音に「ありがとうございましたっ！」の返答。

試練に挑戦したことで、心配りであるとか、周囲への感謝であるとか、またひとつ育った瞬間でした。3 月 11 日まで「チーム篠西」の総力を結集した挑戦が続きます。